

印西大師 第8番 大森・長楽寺 谷ノ堂

1 名称 (No.008)〔手引鏡：谷ノ堂〕〔資料館：長楽寺〕〔行程表：長楽寺〕

2 場所 印西市大森2034-1 長楽寺

大森・前畑堂から道程約280m

GPS座標 35.82976141968025, 140.13739228969135

3 由緒 天台宗 雲冷山 千手院 長楽寺

長楽寺は承和年間(834～847年)に慈覚大師(円仁)によって創建された天台宗の寺です。天正18年(1590年)の戦乱で観音堂、千手観音、脇侍二天、十二房は焼失してしまいましたが、江戸時代に入り、則弁法印が延宝7年(1679年)に観音堂(国宝)、鐘楼堂、仁王門を再建し、元禄

7年(1694年)には千手観音と脇侍二天を再造しています。(中略)しかし、則弁が再建した観音堂は残念なことに昭和25年浮浪者の失火により焼失してしまいましたが、昭和60年から平成元年にわたって本堂の修理とともに観音堂も新築されました。また、300有余年の時を告げてきた梵鐘(中略)には、弘法の隆盛と地域の平穏を祈る銘文に続いて応安2年(1369年)11月6日に檀那家吉が下総国埴生大森郷の長楽寺に奉納したこと、梵鐘の製作者が河内権守であることが刻まれています。(印西名所図会)

4 御堂 大銀杏の先、山門の手前に第8番大師堂があり、中に丸彫の御大師様が1体あり。

5 境内 本堂、観音堂、鐘楼、山門(仁王門)、印西七福神(大黒天)などがあります。秋は大銀杏の黄葉、楓の紅葉もきれいです。2014年には東側の墓地には横綱鳳の慰霊碑もできました。

6 写真 (2017.03、2019.06、2019.08、2023.10撮影)



大師堂



御大師様



大師堂



本堂



大師堂と大銀杏



鳳谷五郎の碑

7 情報

(1) 印西大師 第8番 谷の堂 御詠歌（泉倉寺本による）

薪（たきぎ）とり水熊谷の寺に来て 難行するも後の世のため

四国八十八ヶ所 第8番 高野山真言宗 普明山(ふみょうざん) 真光院 熊谷寺(くまだにじ)

本尊 千手観音菩薩 （徳島県阿波市）写し

(2) 左手に五鈷杵を持つ御大師様

印西大師であり例がないのですが、右の写真のとおり、御大師様が左手に五鈷杵を持っています。通常は右手に五鈷杵、左手に念珠を持っているので、何か意味があるのでしょうか。他には船尾・東光院の御大師様くらいです。



(3) 宗祖伝教大師像



伝教大師（最澄）像は、裏頭（かとう）という袈裟で頭を覆った姿をした座像が一般的ですが、長楽寺の本堂前には、左の写真のとおり、右手に錫杖、左手に念珠を持ち、笠を被った行脚修行姿の伝教大師の石像が祀られています。天台宗のお寺なので伝教大師像があるのは当たり前なのですが、見かけることが少ないので新鮮です。

(4) 梵鐘（応安二年在銘・県指定有形文化財）

総高80.5センチメートル、口径48.6センチメートル、3段組で鋳上げられた梵鐘です。乳は4段4列からなり、上帯と下帯に文様はなく、素文となっています。池の間は3区にわたって15行107文字の銘文が刻まれています。2か所の撞座は龍頭の方向と平行に位置し、八葉複弁蓮華文に6個の蓮子と雄芯をあいらったものです。



銘文は下総埴生西大森郷長楽寺の寺名、弘法の隆盛と地域の平穏祈念文、応安2年（1369年）11月6日の記年銘、奉納者である家吉（森内家吉）、作者である河内権守の名が刻まれています。

梵鐘の縦帯に残されている大きな傷跡は、この中にいた妖怪を退治するために切りつけた刀傷であると伝えられています。（印西市HPより）

(5) 森内家吉の屋敷跡

長楽寺の裏手、鳥見神社と道路をへだてた畑地は小字で「森内」というが、そこが森内家吉の屋敷跡であり、畑中に茶が植えられている辺りが屋敷の中心部である。畑地と山林の接するところに椿の古木があるが、ここが森内屋敷の西隅で、森内氏の氏神が祀られていたという。現在椿の根元には元禄元年（1688年）に建てられた小さな無縫塔があり、「称蓮社十誉念求大徳」の文字を見るが、森内氏ゆかりの僧侶の墓であろうか。（印西町文化研究会「郷土の文化財」昭和56年発行）

(6) 総州六阿弥陀

総州六阿弥陀とは、文政10年(1827年)開創の霊場で、第1番・徳満寺(利根町布川)、第2番・延命寺(我孫子市布佐)、第3番・泉倉寺(印西市和泉)、第4番・長楽寺(印西市大森)、第5番・三宝院(印西市竹袋)、第6番・勢至堂(利根町布川)は現存せず布川不動堂(利根町布川)へ移動と、番号の

付いた札所が6か所のほか、最勝院(印西市発作)、来見寺(利根町布川)、無量寺(利根町中谷)、念仏院(利根町押付新田)、瑞光寺(利根町押付新田)から水神宮(利根町押付本田)へ移動、と番外の札所が5か所あり、計11か所の札所で構成されている。(「ニッポンの霊場」HPより)

(7) 郷土の横綱「鳳」しのぶ 改葬し慰霊碑建立

印西市大森の長楽寺(秋田昌寛住職)で(2014年2月)16日、第24代横綱「鳳谷五郎(おおとりたにごろう)」の慰霊碑が完成し、開眼供養の法要が開かれた。第24代横綱「鳳」(本名・瀧田明)は、印旛郡大森村(現在の印西市大森)出身で、大相撲力士として明治時代から大正時代にかけて活躍。小柄な体格を補う豊富な稽古量でみるみる頭角を現し、1915年に横綱にまで上り詰めた。長楽寺によると、1956年に逝去した「鳳」の遺骨は、東京都台東区の延寿寺内の「瀧田家」の墓石に埋葬されていたという。“郷土の偉人”の功績を後世に伝えようと、生まれ故郷の印西市内に墓石を改葬する話が持ち上がり、遺骨を移し慰霊碑を建立する準備を進めていた。開眼供養の法要には、板倉正直市長や千葉県議など地元関係者らが出席。高さ約1メートルの御影石でできた慰霊碑に手を合わせ、生前の功績をしのんだ。(2014年2月17日 千葉日報)

※本堂の東の墓地内にあります。

2024.02一部更新